

国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開について

国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設において、壁画・石材の修理作業を行っている「修理作業室」の平成20年秋の一般公開を下記の日程で実施した。概要は以下のとおりである。

1. 期 間：平成20年11月2日（日）～11月9日（日）
9：00～17：00 [8日間]
※明日香村地元公開（平成20年11月1日）[1日間]
2. 場 所：国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設
（奈良県明日香村国営飛鳥歴史公園内）
3. 主 催：文化庁、国立文化財機構奈良文化財研究所、国立文化財機構
東京文化財研究所、国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所、奈良
県教育委員会、明日香村
4. 内 容：事前ガイダンス（これまでの保存管理の経緯と現状）
修理作業室の公開（見学用通路の窓ガラス越し）
5. 来場者数：3,302人（8日間、来場者率74.7%）
※明日香村地元公開 134人

11月2日（日）	441人
11月3日（月）	406人
11月4日（火）	413人
11月5日（水）	417人
11月6日（木）	409人
11月7日（金）	379人
11月8日（土）	398人
11月9日（日）	439人

6. 今後の予定
年に1、2回程度実施。来年度は春に公開を予定。

公開後に来場者にアンケートを配付したところ、多数の感想、意見が寄せられた。(アンケート回答数 2, 837件)

<好感を持たれている主な意見・感想>

- 公開に参加できて満足・感動した。(229人)
- 良い催しだと思う。今後も続けてほしい。(145人)
- 壁画の劣化がひどく驚いた。(128人)
- 壁画の保存の難しさを知った。(120人)
- また次回以降参加したい。(113人)
- 現状の修理作業施設での壁画保存が最適であると思う。(23人)
- 現状の少人数制の公開でよい。(12人)

<改善を求めている主な意見・感想>

- 必ず壁画を後世に残してほしい。(183人)
- もっと多くの人が見学できるようにしてほしい。(123人)
- 壁画の復元ができるように願う。(116人)
- 壁画の保存に対する対応や対策が遅かったのではないか。(112人)
- このような状態になった保存状況に対する憤りがある。(102人)
- 修理後(10年後)にまた見たい。(93人)
- 壁画が元の古墳に戻すべきである。(68人)
- 修理後も博物館等で公開してほしい。(56人)
- 積極的に保存活用に関する情報を開示してほしい。(38人)
- 1日も早い復旧をお願いしたい。(35人)
- 壁画の修理の進捗状況を随時公開してほしい。(31人)
- 劣化に対する責任の所在を説明してほしい。(26人)
- 新たに壁画のレプリカを作成してほしい。(26人)
- 同じ過失が二度と起きないようにしてほしい。(23人)
- いつでも自由に見学できるようにしてほしい。(20人)
- 小中高等学校などの教育機関にも公開してほしい。(17人)
- 今後の保存方針等を具体的に知りたい。(17人)
- 作業後も壁画は明日香村に残すべきである。(16人)
- 保存施設を新設し、永久保存してほしい。(14人)
- 保存活用にもっと予算を多く投入すればよい。(14人)
- 壁画が発見されない方がよかった。(11人)

など多数の意見が寄せられた。

仮設修理施設へのムカデの侵入と対応について

東京文化財研究所 木川 りか

1. 仮設修理施設へのムカデの侵入について

国宝高松塚古墳壁画の修理が行われている仮設修理施設修理作業室の一般公開（平成20年11月2日～9日）の際、11月2日に体長約15cmのムカデが修理作業室に侵入しているのが発見され、担当者によりその場で駆除された。このため、一般公開終了後の11月20日に施設におけるムシ等の侵入ルート等に関する調査を実施した。

2. 仮設修理施設の調査と今後の対応

現在、修理作業室の中に直接ムカデの餌となるようなものがあるとは考えられず、11月2日に発見、駆除されたムカデは、外部からの侵入である可能性が高い。11月20日の調査では、施設の室内、地下ピット、屋根裏や施設の外周について侵入する可能性のあるルートを調査するとともに、施設内に昆虫捕獲用粘着トラップを配置した。現在、経過を観察しているところである。これら調査の結果を精査し、協議を行ったうえで、必要に応じて対策を検討する予定である。



修理作業室へ設置された昆虫捕獲トラップの例（平成20年11月20日）



建物外周の状況（修理作業室側）



地下ピットの調査（見学通路床面より）



建物外周外壁の継ぎ目



地下ピットの中で見つかった
ムカデの死骸



外壁の継ぎ目の隙間